



# あなたの戦争体験をお聞かせください

「広報ふじ」では毎年、終戦記念日に合わせ、8月5日発行号で「戦争と平和」特集を企画・編集しています。これまでも、多くの市民の皆さんにご協力いただき、戦時中の貴重な体験談などを紙面で紹介してきました。

ことしも特集を企画するに当たり、市民の皆さんの戦時中の体験や平和への思いを伺いたいと考え、取材に応じてくださる方を募集します。

過去のつらい経験を他人に話すのは、容易ではないと、私たちも十分承知しています。しかし、終戦から63年目を迎え、戦争を知る人が減る中で、語り継いでいかなければならない事実を、「広報ふじ」を通して皆さんに伝えたいと考えています。

第2次世界大戦中、実際に兵役などにつき戦地へ赴いた方、市内や疎開先で幼少期・学生時代を過ごした方、あるいは家庭を守っていた方…、性別や当時の立場は問いません。ご自身の戦争体験・平和への思いを、私たち編集担当者に直接語っていただき、そのお話を広報ふじに掲載しても構わないと思われる方は、ぜひご連絡ください。

※追って、こちらからご連絡いたします。

**募集対象** 第2次世界大戦中の体験を語ってくださる方（広報ふじ8月5日号への掲載にご承諾いただける方） 若干人

**取材方法** 6月中旬～7月中旬の希望日に、広報ふじの編集担当者が直接お話を伺います（ご自宅ほかにて約1～2時間程度）。その際、広報紙に掲載する写真の撮影にもご協力いただきます。

※ご希望により、取材時期・取材場所の変更や、電話での取材などにも対応します。

ご連絡・お問い合わせは、7月10日（必着）までに、電話またははがき・FAXに、住所、<sup>ふりがな</sup>氏名、年齢、電話番号、戦時中のご自身の立場・過ごした場所など（例：「学徒動員で〇〇市の工場で働いていた」）を簡単に記入し、

〒417-8601 富士市役所 広報広聴課  
「広報ふじ 戦争と平和特集」係へ  
☎55-2700 ㊚51-1456

## ■公共交通ひとくちメモ

例えば12歳以上の富士市民全員（平成20年4月1日現在）が、1年に1回路線バス（例：富士駅→市役所）に乗れば、21万5,066人×250円＝5,376万6,500円の収入アップになり、市の補助金4,000万円は不要となります。「最近バスに乗ったことがないなあ」という人も、一度乗ってみてはいかがでしょう？



吉原中央駅～新富士駅～富士駅間を、21時過ぎまで走る「ナイトシャトル」も便利です！

問い合わせ  
都市計画課 ☎55-2904  
㊚51-0475

**みんなで残そう!!**

**第3回** 地域で支える「くらしの足」①

**バス**

**電車**

このコーナーでは、路線バスや地方鉄道の現状に詳しい、交通ジャーナリストの鈴木文彦さんのコラムを5回にわたり紹介しています。

**し** かし、今後のことを考えると、不安要素がとても多いのです。市の財政も厳しくなっている中で、さらに利用者が減って赤字がふえると、それをカバーできなくなるおそれがあります。公共交通は、今走っていればよいというものではありません。5年後、10年後ま

とが望まれます。（次回へ続く）

**地** 域の「くらしの足」は地域で守る、というのがこれからの公共交通の考え方です。かつてバスや鉄道は、事業者が走らせるものでした。その後、事業者の経営が難しくなり、現在は自治体支援して赤字路線を維持する形がとられています。富士市でも、バス路線の維持のため、年間4000万円を補助しています。

**ど** こか1か所に過大な負担がかかると、維持できなくなってしまう。市が赤字をすべて負担して、路線を維持したりコミュニティバスを走らせたりする形では、いずれ限界が来ることは間違いありません。行政が支援をすることは不可欠ですが、だれも乗っていないバスに補助金を出すのでは、みんなの支持が得られません。市民のニーズをしっかりと把握してバスを走らせると同時に、利用者をふやす努力が必要です。それに加え、市民もみずから公共交通を利用し、守る意識を持つことが望まれます。

で持続させていくことを考えなければなりません。

このコーナーでは、路線バスや地方鉄道の現状に詳しい、交通ジャーナリストの鈴木文彦さんのコラムを5回にわたり紹介しています。